学校だより　　学校スローガン「自ら考え、動く有中生！」

有家中だよりNo12

令和８年　１月２６日
南島原市立有家中学校
校長　本　多　洋　二

極める３学期に！

今年度も残すところ２か月足らずになりました。生徒たちは、落ち着いて３学期を過ごしています。前号でも紹介しましたが、主体性や当事者意識を高めるために全職員で取り組んでいます。

＜３学期取組キーワード＞

「主体性・当事者意識」

特に３学期は、**内面を育てる３学期、内面が、行動として表れる３学期を目指して全校生徒、教職員が力を合わせ取り組んでいます**。ご家庭でも意識させてください。

鍛える（１学期）⇒ **磨く**（２学期）⇒ **極める**（３学期）

＜今後の予定（前号でもお知らせ）＞

＜2月＞

・二者面談（１年生）
・６日（金）新入生入学説明会（本校体育館）
・１７日（火）**公立高校一般選抜入試（１日目）**
・１８日（水）**公立高校一般選抜入試（２日目）**
・１９日（木）学校支援会議（本校会議室）

＜3月＞

３日（火）　生徒集会
５日（木）　**公立高校一般選抜入試合格発表**
１０日（火）　卒業証書授与式予行
１１日（水）　卒業証書授与式
１２日（木）　公立高校チャレンジ選抜入試
１７日（火）　公立高校チャレンジ選抜入試合格発表
２４日（火）　令和７年度　修了式・離任式
２５日（水）～学年末休業（春休み）

～発達障がいの子どもたち（その２）～

前号では、発達障がいについて説明しましたが、本号では、学習障害（LD）について、説明します。LD はラーニング・ディスアビリティーズの略で、学習障害と訳されています。その言葉からも分かるように学習に大きな影響がみられます。

LD で有名なのが、俳優のトム・クルーズです。映画「トップガン」や「ラストサムライ」で主役を演じています。彼は、文字を読んだり書いたりすることが苦手なタイプの LD で、読字障害（ディスレクシア）と言われています。ですから、トム・クルーズは、台本を誰かに読んでもらったものを録音し、それを聞いて覚えるそうです。

LD の多くは、読字障害ですが、算数だけが苦手な算数障害や書くことが苦手な書字表出障害というのもあります。原因ははっきり分かっていませんが、脳の機能障がいと考えられます。

イメージ的には、本棚を思い浮かべてください。本棚が脳だとすると、ある段の棚だけが整理できないという感じになります。決して、本人の努力不足や家庭のしつけの問題ではありません。誰でも算数が苦手だったり、体育が苦手だったりするということはあるはずです。そういう苦手は、みんなあることであり、言わば個性です。ですから、LD もちょっと強い個性だと考えることができます。次号では、ADHD について説明します。

生徒会役員新体制でスタート

会長をはじめ、副会長、専門委員長、副委員長の新生徒会役員の体制が３学期からスタートしました。有家中学校の良き伝統を守り、更に発展させてくれることを願っています。

メンバーは、以下のとおりです。（敬省略）

・生徒会会長　　髙田　健汰（２－２）
・　　副会長　　小関　怜花（２－１）
・　　副会長　　御厨　海　（１－３）
・　　書　記　　柳谷　曖琉（２－１）
・　　会　計　　松島　怜花（１－２）

会長・副会長に任命状を授与しました。

・生活委員長　松尾　瞳来　（２－２）　副委員長　上村　丈一郎（１－１）
・学習委員長　荒木　久允佳（２－１）　副委員長　金丸　愛実　（１－３）
・広報委員長　小嶺　璃央（２－２）　副委員長　田中　翔　　（１－３）
・保体委員長　永田　朱鳥（２－１）　副委員長　髙田　琉生　（１－２）
・美化委員長　田中　愛美（２－１）　副委員長　中村　渚紗　（１－２）
・給食委員長　永石　優斗（２－２）　副委員長　原田　鳳聖　（１－２）

＜生徒会長から委嘱状が授与されました。＞

ブレークコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

【親の言葉は子どもの『心の声』になる】

ある心理学者は、こう言っています。「子どもは、親に言われ続けた言葉で、自分自身と会話するようになる。」どういうことかというと、「どうせ無理」「また失敗したの？」と言われて育った子どもは、大人になっても自分に同じ言葉を投げかけてしまいます。逆に「大丈夫」「やってみよう」「失敗してもいいんだよ」と言われた子どもは、困ったときに自分で自分を励ませる人になります。子育ては、「今の行動」より、「将来の心の声」を育てているとも言えます。

親がやるべきなのは、答えを与えることより、考える力を信じることです。例えば、子どもが転んだ時、失敗した時、「だから言ったでしょ！」と言うのは簡単です。しかし、「どうしたら次は転ばないと思う？」「どうしたら失敗しないと思う？」と聞くと、子どもは自分で考え始めます。失敗は、叱る材料ではなく、学ぶ材料です。子どもが考える、学ぶチャンスなのです。

「子どもは、親の言う通りには行動しないが、親のする通りに行動する。」とよく言われます。子どもは、親の言葉よりも、親がどう生きているかをよく見ています。「こうしなさい」と言わなくても、親の姿勢そのものが教育になっています。人にありがとうと言えているか、間違えたときに素直に謝れているか。辛い時でも投げ出さずに向き合っているか。「子どもは、親の背中を見て育つ！親の背中は、最高の教科書」と言われる所以です。

子育ては、抱きしめる時期、見守る時期、手を離す時期があります。この順番を間違えないことが大切です。ずっと抱きしめたままだと、子どもは自分では歩けません。早く離しすぎると、不安になり、上手く歩けません。愛情とは、必要なときに手を出し、不要になったら信じて任せることです。子育ては、子どもを思う通りに育てることではなく、子どもが自分の人生を歩けるようにそっと支えることだと思います。